

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
岩谷学園アーティスティックB 横浜美容専門学校		平成16年1月9日		鈴木 政信		〒 220-0023 (住所) 神奈川県横浜市西区平沼1-38-13 岩谷学園7号館 (電話) 045-290-7090		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人岩谷学園		昭和46年12月1日		理事長 岩谷 大介		〒 220-0023 (住所) 神奈川県横浜市西区平沼1-38-19 岩谷学園5号館 (電話) 045-321-4414		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
衛生	衛生専門課程		ビューティースタylist科		平成20(2008)年度	-	平成26(2014)年度	
学科の目的	企業その他関係機関との連携の下、美容分野における実務に関する知識・技術及び技能を教授し、またビジネスとして美容界で活躍できる職業人に必要な実践的かつ専門的能力を育成することを目的とする							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	【取得可能な資格】 ・美容師免許 ・公益財団法人JNECネイリスト技能検定 ・NPO法人JNAジェルネイル技能検定 ・まつ毛エクステンション技能認定 ・パーソナルカラー検定 ・ビジネス能力検定 他							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,010 単位時間	630 単位時間	180 単位時間	1,200 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)			
80 人	71 人		0 人		0 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		32 人					
	■就職希望者数(D)		32 人					
	■就職者数(E)		31 人					
	■地元就職者数(F)		13 人					
	■就職率(E/D)		97 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		42 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		97 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	アルバイト(美容師)							
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無					
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載した ホームページURL			
当該学科の ホームページ URL	https://artisticb.ac.jp/							
企業等と連携した実 習等の実施状況(A、 Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数				2,010 単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				240 単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位時間			
	うち必修授業時数				1,410 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間			
	(B:単位数による算定)							
	総授業時数				単位			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位			
	うち必修授業時数				単位			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位			
教員の属性(専任教 員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担 当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年 限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				1 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				0 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				1 人			
	計				= 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を 有する者を想定)の数				1 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①時代の変化に適応できる人材を育成するため、連携企業と情報交換を行い、即戦力となる教育内容を教育カリキュラムに反映させる。
②企業が持つ最先端の技術や知識を身につけ、教員のスキルアップを図る研修計画と実施。
③サービス業に携わる人材として、身に付けるべき接客マナーレベルとビジネスマインドを知る機会とする。
以上の3点を目的に、教育課程編成委員会を実施し、企業からの意見を参考にカリキュラム等の見直しを行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

【位置付けについて】
校長統括のもとに教育課程編成委員会を設置し、企業等の委員より示されたアドバイスや要請等、本校の教育課程の編成に係る事項の調整や提言・審議を行う機関として位置付ける。
【意思決定の過程について】
①学科の課題を明確にし、教育課程編成委員会にて提言を求める ②委員会において企業等の委員より示された意見を参考に次年度以降の教育課程編成に対する方策案を策定する ③校長および学科の担当教員は、審議を通じて企業等の委員より示された意見をもとに改善案等を作成、検討を経て次年度以降の教育課程(目指す人材像、授業科目、シラバス等)の編成に反映させていく

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
小野 公章	artifice(r) 代表取締役	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	①
伊藤 隆雄	株式会社きくや美粧堂 全国サロン推進部 ビジネスリレーション学校担当マネージャー	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	①
鈴木 政信	岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校 校長		—
宮田 具	岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校 副校長		—
古谷 聖子	岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校 教育マネージャー		—
荒木 美由貴	岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校 教育マネージャー		—
石井 紀代子	学校法人岩谷学園 本部学生課 課長		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (6月、11月)

(開催日時)

第1回 令和7年6月17日 16:00～17:15

第2回 令和7年10月21日 16:00～18:00開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

今回の教育課程編成委員会では、業界の動向や、インターンシップ導入について委員の方より意見を聴取した。業界の動きや最近の学生の特徴などから学校として教育すべき部分が明確となったため、今後の学校教育にて活かしていく。また、カリキュラム変更については、具体的な案をご提示いただいたので、その委員のご意見をもとにカリキュラム変更について再度見直しを図り、改善する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

美容業界は変化が速く、かつ激しいという現状があるが、それぞれの分野（ヘアカラーリング、エステ、ネイル、メイク等）において、最新の知識と技術を有し、また教育に関しても高い意識を持つ優秀な企業等との連携。連携企業等とは密接な情報交換を通じて、実習・演習が学生の主体的な学習意欲向上に結び付き、企業等の人材やノウハウを学校教育に積極的に活かす。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

「高度美容技術」において産学連携を実現。企業様やサロン様の協力を得、現場の「今」を学ぶ取り組みを行っている。授業方法は演習・実習が主となり、定期的に相モデル実習を行い実践を意識した教育を行う。評価方法は試験の実施と講師による実習評価を適宜行い評価する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ビジネス実践Ⅱ	・特別研修 ・サロンヘアスタイルの展示 ・ペーパーコラージュ	株式会社きくや美粧堂 株式会社C-LOOP UNITED
高度美容技術Ⅱ	・鉗の構造・メンテナンス方法の指導 ・パーマネントウェーブ技術 ・ヘアカラーリング技術 ・ヘッドスパ技術 ・メイク展示授業 ・メイク実習	株式会社内海 ウエラジャパン合同会社 株式会社ミルボン エル・シー・エス株式会社 有限会社エムツー・ビー
高度美容技術Ⅲ	・パーマネントウェーブ技術 ・ヘアカラーリング技術 ・ブライダルを想定した実践的フェイシャルトリートメント ・メイク展示授業 ・メイク実習 ・ブライダルメイクの展示授業 ・ヘアアレンジ技術	ウエラジャパン合同会社 株式会社フラタニティ エル・シー・エス株式会社 有限会社エムツー・ビー 有限会社サロンド ボーテ グレース 株式会社ONE and ALL
美容総合運営Ⅱ	・特別研修 ・サロンヘアスタイルの展示 ・ペーパーコラージュ	株式会社きくや美粧堂 株式会社C-LOOP UNITED

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

時代・社会・教育環境の変化に適応でき、個性豊かな学生を指導できる教員を要請すべく体系的にかつ計画的に、そして積極的に研修に取り組む。学校で定めた研修規程に従い、各種研修実施計画を策定するとともに、連携企業の協力も求め、教員に対して研修等に参加する機会を平等かつ積極的に与え、自己啓発および自己研鑽に向けた意欲を高めてもらう。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	JNAネイルサロン等化学物質管理指導者講習会	連携企業等:	NPO法人 日本ネイリスト協会 主催
期間:	令和6年4月24日	対象:	専任教員
内容	ネイル製品等に含まれる化学物質に関する知識・取扱い方法について学び、労働安全衛生法における化学物質のリスクアセスメントに基づく管理方法を習得する。		

研修名:	運営管理	連携企業等:	理美容教育センター
期間:	令和6年9月2日～13日	対象:	専任教員
内容	美容師国家試験の試験課題の一つ （国家試験対策授業にむけて）		

研修名:	ヘアケアマイスター プライマリー試験	連携企業等:	ヘアケアマイスター協会
期間:	令和6年10月29日	対象:	専任教員
内容	毛髪に関する検定		

研修名:	CIDESCO GST グレイスフルフェイシャル指導者講習会	連携企業等:	CIDESCO－NIPPON
期間:	令和6年11月17日	対象:	専任教員
内容	シデスコ・インターナショナルが、世界中のCIDESCOセラピストのために開発した「GST グレイスフル・フェイシャル」の技術を講座開講できる指導者対象の講習会		

研修名:	ヘッドトリートメント	連携企業等:	AJESTHEWEBセミナー
期間:	令和6年11月23日	対象:	専任教員
内容	環境や季節、ストレスなどで日々変化する皮膚は頭皮も同じ。癒しのタッチで行うヘッドトリートメントの基礎を理論と手技のデモンストレーションで紹介。		

研修名:	JNAネイルサロン等化学物質管理講習	連携企業等:	日本ネイリスト協会
期間:	令和7年3月27日	対象:	専任教員
内容	ネイル教育施設等で使用しているネイル製品(揮発性溶剤を含む化学物質)を安全に管理するための知識を習得する		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	LINEを活用した広報活動	連携企業等:	株式会社キャリアタス
期間:	令和6年4月30日	対象:	専任教員
内容	LINEを活用した広報活動の取り組み方を学ぶ。		

研修名:	自社HPの活用方法	連携企業等:	株式会社キャリアタス
期間:	令和6年4月30日	対象:	専任教員
内容	自社HPを活用した広報活動を学ぶ。		

研修名:	Google for Education 教員と児童生徒が活用する最適共有可能な端末と共同編集ツール	連携企業等:	Google for Education Fig Jam 実践
期間:	令和6年5月10日	対象:	専任教員
内容	全国の教育の現場で利用されているGoogle for Educationの導入事例や学習環境をアップグレードするデータの力で教育を支援する方法を学ぶ。GIGA第2期ICT利活用のサポート方法。		
研修名:	これからの学校体育とICT	連携企業等:	日本体育大学
期間:	令和6年5月10日	対象:	専任教員
内容	体育の授業やそこで得られたデータの活用の実態及び課題について。合理的な活用とは。Ipadを使用した跳び箱や鉄棒の新しい学習方法を学ぶ。		
研修名:	産業カウンセラー資格試験(筆記)	連携企業等:	日本産業カウンセラー協会
期間:	令和6年6月23日	対象:	専任教員
内容	カウンセラーとしての知識を身につけ、学生対応に役立てられるよう資格取得する。		
研修名:	イスラムの国々と平和について～日本の役割と支援	連携企業等:	日本体育大学
期間:	令和6年6月28日	対象:	専任教員
内容	他宗教や民族理解、国際交流の在り方を学び共存する社会をつくる。		
研修名:	産業カウンセラー資格試験(実技)	連携企業等:	日本産業カウンセラー協会
期間:	令和6年7月6日、7日	対象:	専任教員
内容	カウンセラーとして技術を学生対応へ活かせるよう資格取得する。		
研修名:	教員研修会のオンデマンド化に関する説明	連携企業等:	公益財団法人法人理容師美容師試験研修センター
期間:	令和6年8月29日	対象:	専任教員
内容	オンデマンド化に向けての概要説明。		
研修名:	日本・地域を1ミリでも良くしたい。	連携企業等:	有限会社 秋山木工
期間:	令和6年9月26日	対象:	専任教員
内容	独特の職人育成が多くのメディアで取り上げられ、著書も多数上梓している秋山先生の日頃の教えを披露いただく。		
研修名:	ワークから考えるこれからのコミュニケーション	連携企業等:	横浜国立大学大学院
期間:	令和6年9月27日	対象:	専任教員
内容	グループワークをもとにしたコミュニケーションのあり方、コミュニケーションの重要性の学び。シェアド・リーダーシップの考え方、組織運営の学習。		
研修名:	様々な体験を通して感じた人の持つ可能性と進化、そして『変化』の重要性	連携企業等:	ポップヴァイオリニスト 式町 水晶さん
期間:	令和6年9月27日	対象:	専任教員
内容	脳性まひという症状を抱えているなかで、プロのヴァイオリニストとして活動されている方の講演と演奏。		
研修名:	Z世代のSNS・ネット利用実態とトラブル～教員はどうすべきか～	連携企業等:	成蹊大学客員教授 ITジャーナリスト
期間:	令和6年9月28日	対象:	専任教員
内容	現状を取り巻くSNSの環境、そしてそれとどう繋がり向き合っていくかをテーマにした研修。		

研修名:	未来の専修学校をつくる ～教員研修と卒業生調査のヒント～	連携企業等:	株式会社三菱総合研究所
期間:	令和7年2月18日	対象:	専任教員
内容	①教職員とともに成長する学校づくりのために～今年度の事業成果の解説～ ②職業教育のマネジメントのポイント ③ 卒業生調査に関するパネルディスカッション テーマ: 各校の取り組み紹介・卒業生調査で何を把握すべきか・卒業生調査のよりよい実施方法とは・卒業生調査をどう活用するか等		

研修名:	甲種防火管理新規講習	連携企業等:	一般財団法人日本防火・防災協会
期間:	令和7年3月26日、27日	対象:	専任教員
内容	①防火管理の意義と制度の概要②火気取り扱いの基礎知識と出火防止対策③施設・設備の維持管理④自衛消防⑤防火管理の進め方と消防計画⑥効果測定		

(3)研修等の計画

(2)研修等の実績と同内容

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校が行った自己評価の結果を踏まえ、評価が適切であるかを評価し、学校運営の改善を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	(11)国際交流

(3)学校関係者評価結果の活用状況

教職員による「自己評価」に対し、学生へのアンケートや、「学校関係者」の学校訪問・意見交換等を通じて、その評価に関する結果を取りまとめて公表することにより、今後の学校の教育活動や学校運営の改善を図る。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
松野 功明	有限会社サロンド ボーテ グレース	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
山内 寿子	株式会社フラタニティ	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
岩田 直樹	有限会社プライド	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
最上 千香	Beauty Salon Aloha	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	卒業生
我妻 紗彩香	ヘレナ ルビンスタイン	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	卒業生
前 静江	保護者	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	PTA
有賀 幸子	保護者	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	PTA
鈴木 弘文	地域住民	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	地域住民
松本 康二	地域住民	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	地域住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（ ）
URL: https://www.artisticb.ac.jp/disclosure/
公表時期: 令和7年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の学校運営や教育活動に関する情報提供を行い、関係者の理解を深める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要
(2) 各学科等の教育	ビューティースタylist科の教育内容
(3) 教職員	組織および教職員の状況
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務状況
(9) 学校評価	学校自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（ ）
URL: URL:https://www.artisticb.ac.jp/disclosure/
公表時期: 令和7年6月30日

授業科目等の概要

	(衛生専門課程 ビューティースタylist科)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			関係法規・制度Ⅰ	①美容師として法律の役割と重要性を理解する。 ②美容師として美容現場で使える基礎知識を身に付ける。 ③美容師国家試験レベルの問題を常に8割以上得点できるようになる。	1年・後期	20	1	○			○				○
2	○			関係法規・制度Ⅱ	①美容師として法律の役割と重要性を理解する。 ②美容師として美容現場で使える基礎知識を身に付ける。 ③美容師国家試験レベルの問題を常に8割以上得点できるようになる。	2年・前期	10	1	○			○				○
3	○			衛生管理Ⅰ	①美容師・美容所として必要な衛生の向上及び確保に関して、特に公衆衛生・環境衛生を中心に知識習得を目指す。 ②「清潔保持」のために衛生管理の実践例を理解する。 ③美容師の学科試験が自主的に合格できるレベルにする。	1年・前期	20	3	○			○				○
4	○			衛生管理Ⅱ	①美容師・美容所として必要な衛生の向上及び確保に関して、特に感染症や消毒の総論を中心に知識習得を目指す。 ②「清潔保持」のために衛生管理の実践例を理解する。 ③美容師の学科試験が自主的に合格できるレベルにする。	1年・後期	30	3	○			○				○
5	○			衛生管理Ⅲ	①美容師・美容所として必要な衛生の向上及び確保に関して、特に消毒の各論や衛生管理全般を中心に知識習得を目指す。 ②「清潔保持」のために衛生管理の実践例を理解する。 ③美容師の学科試験が自主的に合格できるレベルにする。	2年・前期	30	3	○			○				○
6	○			衛生管理Ⅳ	①美容師・美容所として必要な衛生の向上及び確保に関して、特に衛生管理の実践のための知識習得を目指す。 ②「清潔保持」のために衛生管理の実践例を理解する。 ③美容師の学科試験が自主的に合格できるレベルにする。	2年・後期	10	3	○			○				○
7	○			保健Ⅰ	①美容師として必要な人体の構造と機能及び皮膚科学に関し、教科書を中心に知識習得を目指す。 ②人体の構造と機能及び皮膚科学を学ぶことにより「美を作ること」への提唱となる。 ③人体の構造及び機能第1章から第6章の範囲で知識習得を目指す。	1年・前期	20	3	○			○				○

授業科目等の概要

	(衛生専門課程 ビューティースタylist科)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
8	○			保健Ⅱ	①美容師として必要な人体の構造と機能及び皮膚科学に関し、教科書を中心に知識習得を目指す。 ②人体の構造と機能及び皮膚科学を学ぶことにより「美を作ること」への提唱となる。 ③人体の構造及び機能第6章から第8章、皮膚科学の範囲で知識習得を目指す。	1年・後期	30	3	○			○			○	
9	○			保健Ⅲ	①人体の構造と機能及び皮膚科学に関し、教科書を中心に知識習得を目指す。 ②人体の構造と機能及び皮膚科学を学ぶことにより「美を作ること」への提唱となる。 ③全範囲で重要センテンス、重要キーワードを中心に効率よく知識習得を目指す。	2年・前期	30	3	○			○			○	
10	○			保健Ⅳ	①美容師として必要な人体の構造及び機能、皮膚科学に関し、国家試験に合格できるレベルの知識習得を目指す。 ②人体の構造と機能及び皮膚科学を学ぶことにより「美を作ること」への提唱となる。 ③全範囲で多くの練習問題をこなす。	2年・後期	10	3	○			○			○	
11	○			香粧品化学Ⅰ	①美容師として必要な香粧品化学の知識を身につける。 ②美容師国家試験に対応、学科試験に合格できるだけの力をつける。 ③美容師として実務に利用できる香粧品化学・化学の知識を習得する。	1年・後期	40	2	○			○			○	
12	○			香粧品化学Ⅱ	①美容師になるために必要不可欠な香粧品化学・化学の理論を習得する。 ②美容師国家試験の対策を万全にし、学科試験に合格できるレベルに到達する。 ③美容師として実務に利用できる香粧品化学・化学の知識を習得する。	2年・前期	20	2	○			○			○	
13	○			文化論Ⅰ	①日本、西洋の美容・ファッションの歴史を学ぶことにより、理容師・美容師としての幅広い感性を磨く。 ②国家試験や就職後の、自助学習能力を養う。 ③表現・ビジュアルコミュニケーション能力を高める。	1年・前期	40	2	○			○			○	
14	○			文化論Ⅱ	①様々な形式の演習問題に取り組み、国家試験に向けて知識の定着を目指す。 ②国家試験や就職後の、自助学習能力を養う。 ③日本、西洋の美容・ファッションの歴史を学ぶことにより、理容師・美容師としての幅広い感性を磨く。	2年・前期	20	2	○			○			○	

授業科目等の概要

	(衛生専門課程 ビューティースタylist科)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
15	○			美容技術理論Ⅰ	①美容師になるために必要な技術理論を学ぶ。 ②美容技術を習得するために必要な基礎理論を学ぶ。 ③美容師国家試験対策及び100%美容師の学科試験が合格できるレベルにする。	1年・前期	60	5		○		○		○		
16	○			美容技術理論Ⅱ	①美容師になるために必要な技術理論を学ぶ。 ②美容技術を習得するために必要な基礎理論を学ぶ。 ③美容師国家試験対策及び100%美容師の学科試験が合格できるレベルにする。	1年・後期	30	5		○		○		○		
17	○			美容技術理論Ⅲ・Ⅳ	①美容師になるために必要な技術理論を学ぶ。 ②美容技術を習得するために必要な基礎理論を学ぶ。 ③美容師国家試験対策及び100%美容師の学科試験が合格できるレベルにする。	2年	60	10		○		○		○		
18	○			運営管理Ⅰ	①経営者の考え方や経営者の果たす責任・役割を学ぶ。 ②勤め人を雇うことの責任や働くうえで求められることを学ぶ。 ③顧客を満足させるサービスとは何か。それをどう実現するかについて学ぶ。	1年・後期	20	1	○			○			○	
19	○			運営管理Ⅱ	①経営者の考え方や経営者の果たす責任・役割を学ぶ。 ②勤め人を雇うことの責任や働くうえで求められることを学ぶ。 ③顧客を満足させるサービスとは何か。それをどう実現するかについて学ぶ。	2年・前期	10	1	○			○			○	
20	○			美容実習Ⅰ・Ⅱ	①美容師になるために必要な技術理論の必要性を学ぶ。 ②美容技術の基礎を学ぶ。 ③美容師国家試験対策及び100%美容師の実技試験が合格できる基礎レベルにする。	1年	390	60			○	○		○		
21	○			美容実習Ⅲ・Ⅳ	①美容師になるために必要な技術理論の必要性を学ぶ。 ②美容技術の基礎を学ぶ。 ③美容師国家試験対策及び100%美容師の実技試験が合格できる基礎レベルにする。	2年	510	60			○	○		○		

授業科目等の概要

(衛生専門課程 ビューティースタylist科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
22		○		情報技術	①Word、Excel、PowerPointの基本操作を習得する。 ②体裁の良いビジネス文書、グラフィック機能を使用したポスターチラシの作成、数式や関数を利用した表計算が行える。	2年・前期	30	1		○		○			○	
23		○		芸術Ⅰ・Ⅱ	①色彩（明度・彩度・色相・トーンなど）について知識習得。 ②自分ブランディングやお客様の美しさを引き出せるよう、パーソナルカラーを学ぶ。 ③自由な発想力かつ美しいヘアデザイン画を描けるようにする。	1年	60	4	○			○			○	
24		○		ビジネス実践Ⅰ・Ⅱ	①サロン運営ができるようなビジネスの基礎を学ぶ。 ②自身がサロン運営をすることをプランニングし、経営の基本を学ぶ。 ③経営者の視点で物事を捉えられ、自分が就職した時にサロン側の視点で考えることができる。	1年	60	6	○			○		○		○
25		○		ビジネス実践Ⅲ	①サロン運営ができるようなビジネスの基礎を学ぶ。 ②自身がサロン運営をすることをプランニングし、経営の基本を学ぶ。 ③経営者の視点で物事を捉えられ、自分が就職した時にサロン側の視点で考えることができる。	2年・前期	30	3	○			○		○		
26		○		高度美容技術Ⅰ・Ⅱ	トータル美容として高度美容技術で学んだそれぞれの知識や技術を基に、お客様にトータルビューティーの視点で提案ができる美容師を育成することを目標とする。	1年	70	20			○	○		○		○
27		○		高度美容技術Ⅲ	①トータル美容として高度美容技術で学んだそれぞれの知識や技術を基に、お客様にトータルビューティーの視点で提案ができる美容師を育成することを目標とする。 ②応用メイクテクニック（質感・グラデーション・イメージメイクテクニック）の習得 ③舞台、特殊メイクテクニック習得、メイクトレンド知識・テクニック習得。	2年・前期	140	10			○	○		○		○
28		○		高度美容技術Ⅳ	トータル美容として高度美容技術で学んだそれぞれの知識や技術を基に、お客様にトータルビューティーの視点で提案ができる美容師を育成することを目標とする。	2年・後期	90	10			○	○		○		

授業科目等の概要

(衛生専門課程 ビューティースタylist科)																
分類				授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択	講義						演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
29		○		美容総合運営Ⅰ・Ⅱ	①美容業界で活躍するための総合的な力を理解し、企画等のプロデュースから運営ができるようになる。 ②イベントの企画を実際に行い、PDCAサイクルに加え、グループとしての実践力も養う。 ③この活動を知的財産とするためにポートフォリオを作成する。	1年	60	8	○			○	○	○		○
30		○		美容総合運営Ⅲ・Ⅳ	①美容業界で活躍するための総合的な力を理解し、企画等のプロデュースから運営ができるようになる。 ②イベントの企画を実際に行い、PDCAサイクルに加え、グループとしての実践力も養う。 ③この活動を知的財産とするためにポートフォリオを作成する。	2年	60	8	○			○		○		
合計					38 科目			67 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： ①各科目の出席率が90%以上②成績がすべての科目において可評価以上③2,010時間以上の教育課程を修了④選択必修科目においてⅢ・Ⅳのどちらかを必ず履修している⑤		1学年の学期区分	2期
履修方法： 学費の未納がない		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。